

引用文献

- 金田純平 2007 「句末昇降調」『音声文法の対照』くろしお出版
小林隆 1992 「『へ』の消長についての方言地理学的一考察」『日本語学』1992年5月臨時増刊号
中井幸比古 2000 「京都市方言の副助詞」『方言資料叢刊』8
中井幸比古 2002a 『京阪系アクセント辞典』勉誠出版
中井幸比古 2002b 『京阪系アクセント辞典 データ CD-ROM』勉誠出版
船木礼子 2007 「京都市方言の原因・理由表現」『全国方言文法辞典<<原因・理由表現編>>』方言文法研究会
前田勇 1949 『大阪弁の研究』朝日新聞社
宮地朝子 2007 『日本語助詞シカに関わる構文構造史的研究』ひつじ書房

【前稿の補訂】

- ・前稿 2.3.5 節 (p.56) で、比較のホカ用の用例を 0 としたが、1888 女中京に 1 例現れる。
- ・前稿 2.21.6 節(p.132)に関連して、小林(1992)に、助詞イはその前が長音・撥音の場合に現れない方言があることが指摘されている。しかし、京都方言の場合はこれは当てはまらない。すでに前稿 p.132 に示したように、前が撥音の場合は例が存在する。前が長音の場合は、京都方言では存在することが自明なため短い母音と区別しなかったが、改めて数えておくと 16 例存在する：15 例オの長母音、1 例ウの長母音。例：音楽堂い、江州[ゴ-シュ-]い。
- ・前稿 2.25.3(p.155)の記述について、矢島(2007)は、イカナ・デナ(行・出)は、帰結部が否定形の二重否定だけでなく、「悪い」、「危ない」、「嘘え」などで、いずれもマイナス評価の語で、義務・必要を含意するものも含めていることを、著者から御教示頂いた。
- ・前稿 2.31 節(p.191)の間投助詞ナーの音調について、「順接・顕著な音節内上昇調」は新しいとした。これについて、金田(2007)p.119 に、実証的資料は挙げられていないが、大阪方言について「高年齢層の話者が上昇調で発話することはまれでむしろ昇降調か下降調で現れる」という記述があることに気付いた